

1

今年度の結果と取り組みについて

(1) 全国学力・学習状況調査

○●国語●○

|   |
|---|
| <p>国語A<br/>(領域ごと)</p> <p>①話すこと・聞くこと<br/>良好な結果であった</p> <p>②書くこと<br/>良好な結果であった</p> <p>③読むこと<br/>概ね良好な結果であった</p> <p>④言語事項<br/>良好な結果であった</p> <p>(問題形式)</p> <p>①選択式<br/>良好な結果であった</p> <p>②短答式<br/>良好な結果であった</p> <p>③記述式<br/>(該当の問題なし)</p> <p>(無解答率)<br/>概ね良好な結果であった</p> <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字の読み書きは正答率が高い。</li> <li>・ローマ字の読み書きでの正答率が他と比べて低くなっており、また無解答率が高い。</li> <li>・選択式の問題形式の設問のほとんどが、無解答0人である。</li> <li>・登場人物の人物像について、複数の叙述を基にして捉える問題の正答率が低くなっている。</li> </ul> |
|---|

|  |
|--|
| <p>国語B<br/>(領域ごと)</p> <p>①話すこと・聞くこと<br/>大変良好な結果であった</p> <p>②書くこと<br/>良好な結果であった</p> <p>③読むこと<br/>良好な結果であった</p> <p>④言語事項<br/>(該当の問題なし)</p> <p>(問題形式)</p> <p>①選択式<br/>良好な結果であった</p> <p>②短答式<br/>(該当の問題なし)</p> <p>③記述式<br/>良好な結果であった</p> <p>(無解答率)<br/>概ね良好な結果であった</p> <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・選択式の問題形式の設問の正答率が高い。ただし、グラフを読み取り適切なものを選択する設問では正答率が最も低い。</li> <li>・文章の内容を的確に押さえ、紹介したい内容をまとめて書く設問で無解答率が高い。</li> </ul> |
|--|

|   |
|---|
| <p>分析</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語A、国語Bとも全国・大阪府平均を上回り、良好な結果であった。</li> <li>・漢字の読み書きについては全体的に正答率が高いが、無解答もあった。日頃から様々な日常生活の場面で漢字を使用していき習得をはかることが必要である。</li> <li>・無解答率は全体的に低く、問題に意欲的に取り組もうとする姿勢がうかがえる。国語Bでは児童質問紙調査の「調査問題の解答時間はじゅうぶんではない。」と回答した児童もおり、情報を取捨選択して読み取る力をつけることも課題としてある。</li> <li>・ローマ字の読み書きの正答率が低い。コンピューターを使う機会が増えたり、国際化に伴い様々な場面で目にすることが多くなることが予想される為、ローマ字の表し方を理解し、正しく使っていく必要がある。</li> </ul> |
|---|

## ○●算数・数学●○

### 算数・数学A

(領域ごと)

①数と計算

概ね良好な結果であった

②量と測定

概ね良好な結果であった

③図形

良好な結果であった

④数量関係

良好な結果であった

(問題形式)

①選択式

概ね良好な結果であった

②短答式

良好な結果であった

③記述式

(該当の問題なし)

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

・数の大小関係を不等号を用いて表現する問題の正答率が最も高い。

・割合が百分率であらわされた場面での基準量と比較量の関係を捉える問題の正答率が低い。

・無解答率は、低い。

### 算数・数学B

(領域ごと)

①数と計算

良好な結果であった

②量と測定

概ね良好な結果であった

③図形

概ね良好な結果であった

④数量関係

良好な結果であった

(問題形式)

①選択式

良好な結果であった

②短答式

大変良好な結果であった

③記述式

良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

・示された条件を基に他の場面でもきまりが成り立つか調べる問題の正答率がもっとも高い。

・式の意味の説明を記述する問題の正答率が低かったが、無解答率は全国・大阪府より低い。

・記述式の問題での正答率が全体的に低い。

### 分析

- ・算数A、算数Bともに全ての区分で全国・大阪府平均正答率を上回っている。
- ・割合の意味の理解や単位量当たりの大きさを求める問題を解決する際に数直線や図などを利用して解決する力をつけていくことが必要である。
- ・たくさんの情報の中から必要な条件を読み取り、的確に関係性を捉えられるような学習力を身につける。
- ・短答式の四則計算については正答率が高く、無解答率が低い。反面、長文であっても文章を最後まで読みきる力も必要であると考えられる。
- ・問題解決型学習を中心とした授業に取り組み、「めあて」「見通し」「自力解決」「交流、発表」「練り上げ」「ふりかえり、まとめ」という流れを授業スタンダードとしている。児童質問紙では「算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか。」「算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか。」のポイントは全国・大阪府を上回っているので授業での課題設定は今後も児童が意欲を持って取り組める内容にしていく。ただ、算数Bの記述式の問題では正答率が低く無解答率が高い傾向にあるので、授業の中で「なぜそのように考えたのか」を自分の言葉でしっかりと説明できる力をつけられるよう、授業改善の取り組みをすすめていく。

## ○●経年比較●○

### 全体的な傾向についての分析

- ・正答率については例年通り全体的に概ね良好な結果である。
- ・無解答率は平成19年度以降で2番目に高い数値となっている。

### 学力高位層と学力低位層についての分析

- ・年度により少し変化が見られるが、学力高位層の割合が低くなり、学力低位層の割合が高くなっている。ただし、国語Aについては学力低位層の児童は減少している。
- ・学力低位層を減少させ全体的な底上げを図る手立てが必要である。

## ○●取り組み●○

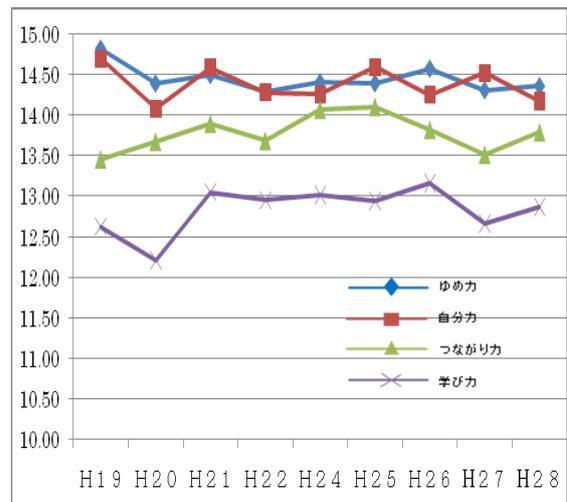
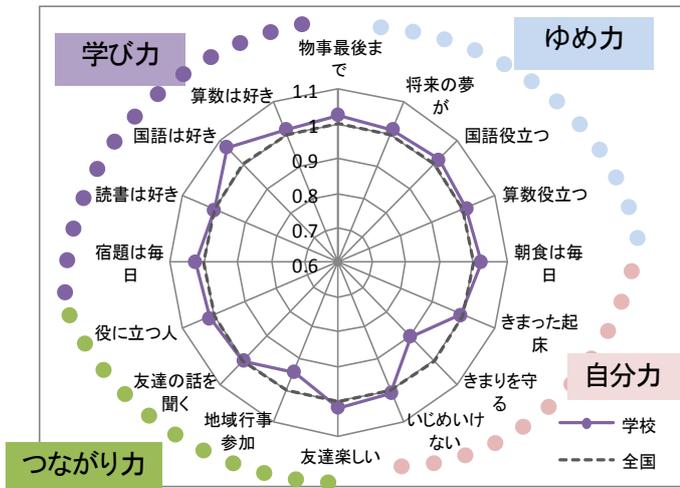
### 学力向上に関する取り組み

- ・算数では基礎的な計算能力は比較的高い。毎週金曜日の朝にSPT（彩都パワーアップタイム）を全学年で取り組み算数科を中心に基礎基本の定着を図っている。
- ・問題解決型学習を行い、一問一答式ではなく自分の考えを図や言葉を使ってわかりやすくまとめ、また練り上げの場面では「いつでも使えて はやい ・ かんたん ・ せいかく」な考え方を自分たちで導き出すことで応用力を身につけている。児童質問紙でも「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか。」の項目の回答で「役立つ」と答えた児童が7割近くいることから今後も具体物の使用や日常生活の場面にそった課題設定をおこなっていく。
- ・読書活動では、毎週月曜日の朝に15分間の読書タイムをとっている。また月に1回、読み聞かせボランティアさんによる読み聞かせや学年ごとに達成目標の異なる「読書ノート」の取り組みをおこなっている。
- ・毎週火曜日と木曜日の朝にSST（彩都サクセスタイム）を実施し、漢字や計算など基礎基本の学習の定着を図っている。
- ・コミュニケーション能力の育成の一環として、全校で音読に取り組んでいる。自分の考えを伝える際に相手に伝わる声のボリュームやスピードを習得できるように音読プリントを配布し、学期ごとに音読朝会を実施している。
- ・各教科の学習ではめあてをはっきりとさせ、自分の考えを持ち解決していく授業展開を進める。また学習したことを自分の言葉でまとめ、表現方法を工夫し分かり易く伝える能力を育成していく。
- ・ICT機器を有効に活用し、わかりやすく楽しい授業に取り組んでいく。
- ・低・中・高学年の段階に応じた話し方のスキルを身につけられるような学習を進める。
- ・児童が主体的に学べる授業づくりの研究を継続しておこなう。

# ○●子どもたちに育みたい力●○

今年度の結果

これまでの推移



## 分析

### 《ゆめ力》

- ・全国平均を上回っており、国語・算数の授業で学習したことが将来社会に出たときに役立つと考える児童が多い。
- ・将来の夢や目標を持っている児童が多い。

### 《自分力》

- ・多くの児童が毎朝同じくらいの時刻に起きており、朝食を毎日食べて規則正しい生活ができている。
- ・「いじめはどんな理由があってもいけない」と回答している児童は多い。しかし「きまりは必ず守る」と回答する児童は少なく、規範意識を高めていく必要がある。

### 《つながり力》

- ・「友達と会うのは楽しい」のポイントが高い。
- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心があるが、地域行事への参加のポイントが低い。

### 《学び力》

- ・全国平均を上回っており、家で学校の宿題をするなど家庭での学習の基礎が定着している。
- ・ものごとを最後までやり遂げることがうれしいと感じている児童が多い。

## 取り組み

### 《ゆめ力》

- ・学校での学習が将来役立つと考えていることから、今後も夢を持ち実現に近づけるような授業、学級集団作りに取り組む。

### 《自分力》

- ・人権週間には作文や標語、ポスターに取り組んでいる。また児童会活動等とリンクさせながら、いじめは何があっても許さないという意識をより一層強く持たせていく。

### 《つながり力》

- ・学級や学年みんなで協力して何かをやり遂げる楽しさを感じ取れるような集団作りに取り組む。
- ・彩都カーニバルや交流給食、なかよし集会を通じて、異学年交流をすすめていく。

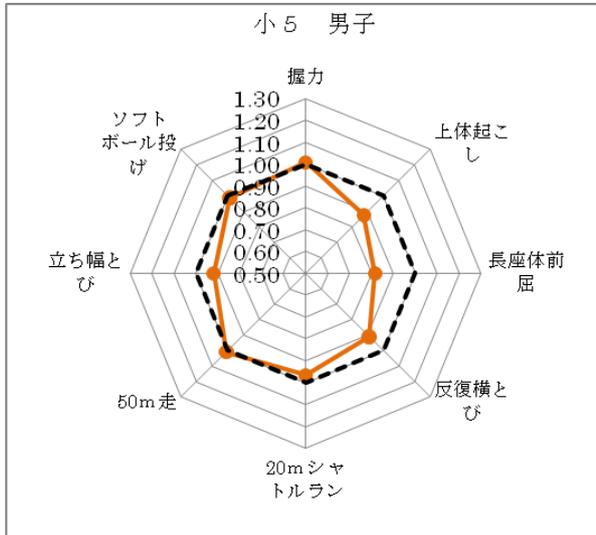
### 《学び力》

- ・コミュニケーション能力の育成を図るため、ペア学習や班学習を取り入れ自分の意見を友達の前で自信をもって発表できるような授業づくりに取り組む。

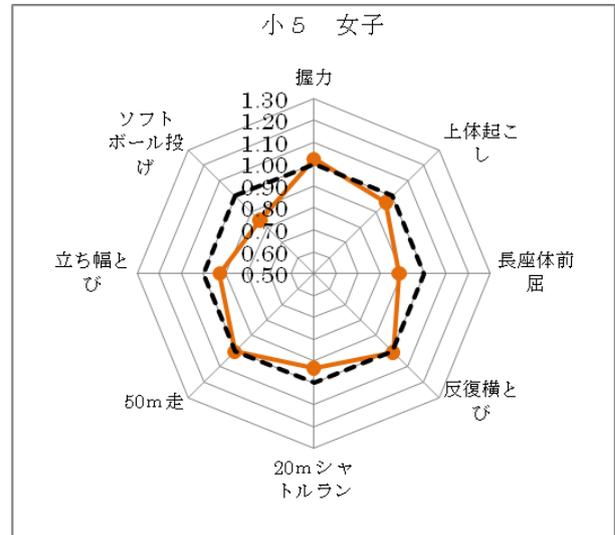
## (2) 全国体力・運動能力、生活習慣調査

### ○●体力●○

男子 (小5)



女子 (小5)



#### 分析

- ・50m走と握力の記録は、全国平均の記録に比べてよい。
- ・長座体前屈、女子ソフトボール投げに課題がある。
- ・運動を好きと答えた子どもと、きらいと答えた子どものポイント差が大きい。
- ・体育を好きと答えた子どもと、きらいと答えた子どものポイント差が大きい。
- ・全国平均と比べると体力の高位層の割合が少なく、低位層の割合が多い。

#### 取り組み

- ・「耐寒マラソン週間」「なわとび朝会」を続けていき、次につながる仕掛けや目標づくりをする。
- ・体づくり運動は特に低学年から重点的に行い、けがの防止のためにも柔軟性もつけていく。
- ・小中連携のカリキュラムに沿って投力をあげる取り組みを進めていく。
- ・学校として、児童の実態を考慮し体力向上のための体育科学習カリキュラムを作成する。
- ・日常生活や、遊びの中での体づくりを提案していく。
- ・授業の中で多様な動きを沢山経験させ、子どもたちが楽しい、もっとやりたいと思う授業づくりをする。
- ・領域ごとに、各学年の目標を決め、目標達成率を出し、効果の検証を図る。
- ・目標達成できなかった児童へのプランを思考していく。

## 2

## 3年間の計画

|        | (各校)   | (各校)  | (ブロック共通)   |
|--------|--|---|--|
|        | 学力向上   | 体力向上  | 中学校ブロック連携  |
| 目標     | 自ら学び考え、生き生きと活動する子  | 運動をすることが好きな児童を全国平均より増加させる   | 自己肯定感と思いやりをもって<br>つながる子どもたちを育てる  |
| 平成26年度 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語科学習を中心として、確かな学力をつけ、コミュニケーション力を育てる。</li> <li>(1) 確かな学力の育成               <ul style="list-style-type: none"> <li>*「基礎基本の定着」(習熟の時間の充実・家庭との連携)</li> <li>*「応用力の向上」(国語科・算数科における授業改善)</li> <li>*「表現力の育成」を柱として研究を進めるとともに、目標を達成するための校内システムの充実</li> </ul> </li> <li>(2) 英語活動               <ul style="list-style-type: none"> <li>*国際コミュニケーション能力の基礎を培う</li> </ul> </li> <li>(3) 小中連携の活性化</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 学校として体育科学習のカリキュラムを作成する。</li> <li>(2) 授業力の向上               <ul style="list-style-type: none"> <li>*「あたらしい体育」の内容に沿った授業を行う。</li> <li>*授業中の運動量の確保</li> <li>*1時間の「めあて」の提示</li> <li>*多様な動きを経験させる</li> </ul> </li> <li>(3) 茨木っ子運動を取り入れる</li> <li>(4) 運動習慣を確立させるための取り組み               <ul style="list-style-type: none"> <li>*耐寒マラソン週間</li> <li>*なわとび</li> </ul> </li> <li>(5) 生活習慣や食習慣を確立するための取り組み</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>「見合う・知り合う」</li> <li>◎彩都西中学校で合同授業研               <ul style="list-style-type: none"> <li>11月20日(木)</li> <li>6限 2:40～3:30 1年公開授業</li> <li>授業後 5グループ討議</li> </ul> </li> <li>◎他校の校内研修への参加</li> </ul>   |
| 平成27年度 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語科学習を中心として、確かな学力をつけ、コミュニケーション力を育てる。</li> <li>(1) 確かな学力の育成               <ul style="list-style-type: none"> <li>*「基礎基本の定着」</li> <li>*「応用力の向上」</li> <li>*「表現力・情報処理能力の育成」</li> </ul> </li> <li>(2) 英語活動</li> <li>(3) 小中連携の活性化</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 学校として作成したカリキュラムに沿って授業を行う。</li> <li>(2) 授業力の向上</li> <li>(3) 茨木っ子運動に取り組む</li> <li>(4) 運動習慣を確立させるための取り組み</li> <li>(5) 生活習慣や食習慣を確立するための取り組み</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>「目標と共通実践の決定」</li> <li>◎小学校 2校での合同授業研(2回)               <ul style="list-style-type: none"> <li>6月24日(水) 彩都西小学校→6年公開授業実施</li> <li>11月26日(木) 清溪小学校→全学年公開授業予定</li> </ul> </li> <li>・連携する内容別の分科会の開催</li> <li>・授業内容の交流 保幼小中連携カリキュラムの検討。</li> </ul>  |
| 平成28年度 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語科学習を中心として、確かな学力をつけ、コミュニケーション力を育てる。</li> <li>(1) 確かな学力の育成               <ul style="list-style-type: none"> <li>*「基礎基本の定着」</li> <li>*「応用力の向上」</li> <li>*「表現力・情報処理能力の育成」</li> </ul> </li> <li>(2) 英語活動</li> <li>(3) 小中連携の活性化</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 学校として作成したカリキュラムに沿って授業を行う。</li> <li>(2) 授業力の向上</li> <li>(3) 茨木っ子運動に取り組む</li> <li>(4) 運動習慣を確立させるための取り組み</li> <li>(5) 生活習慣や食習慣を確立するための取り組み</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>「実践」</li> <li>◎中学校区全校各1回ずつ               <ul style="list-style-type: none"> <li>6月15日(水) 彩都西中</li> <li>11月22日(火) 清溪小</li> <li>2月8日(水) 彩都西小</li> </ul> </li> <li>◎他校への校内研修の参加</li> <li>◎小中での連携事項を意識した授業実践</li> <li>◎保幼小中連携カリキュラムの完成</li> </ul> |

\*各年度末総括により、内容修正もあり得る。